
山梨大学教育人間科学部附属教育実践総合センター センターだより 第66号(通巻第133号)

2008年2月29日 発行
山梨大学教育人間科学部
附属教育実践総合センター
TEL 055-220-8325, FAX 055-220-8790
E-mail: jissen@sazanka.aj3.yamanashi.ac.jp
URL: <http://www.cer.yamanashi.ac.jp/>

このセンターだよりで紹介した研究会, 研修, 教育フォーラムに関するお知らせは, 改変しない限り, 自由に複写, 配布していただいて結構です。

第3回学内教育相談協議会のお知らせ

第3回学内教育相談協議会開催を、平成20年3月5日(水)16時より行います。会場はJ号館4F 授業研究演習室です。今年度から開始された「地域連携 子どもと親と教師のための教育相談事業」の現況報告や教育相談全般について意見交換などを予定しています。教育相談スタッフの先生方、ご関心をお持ちの方々の参加をお待ちしております。

「これからの子どもたちにつけたい力」～第18回教育フォーラムのご報告～

山梨大学教育人間科学部主催、第18回教育フォーラムが2月9日(土)、教育現場の先生方や大学生を中心に約100人が参加し、「これからの子どもたちにつけたい力」～活用力の向上を目指して～をテーマに開催されました。

パネリストとして、本学理科教育講座教授の堀哲夫先生、山梨県教育庁義務教育課主幹の堀之内睦男先生、甲府市立大里小学校校長の桜林俊一先生、山梨市立山梨南中学校校長の雨宮亘先生、そして山梨県立峡南高等学校教諭の朱膳寺利枝先生を招きました。

はじめに、司会の永田徹客員教授(附属教育実践総合センター)から、本フォーラム開催の趣旨説明があり、引き続いて5人の先生方から、「活用力」について、それぞれの立場から実践を踏まえたお話をいただきました。その後、参加者からの質問紙をもとにした質疑応答があり、最後には各先生方の活用力の向上にむけての思いを伝えていただきました。「具体的な場面での活用する力について理解を深めることができた」「自分の考えを実践と結びつけて考えることができた」「自己肯定感を育むという子どもの内面にも踏み込んで指導していくことの必要性を感じた。現場で生かしていきたい」「大学と教育委員会が連携し、教育に関する課題を深めていくことはとても有意義だ」などの感想が寄せられました。



「新学習指導要領の方向性」～第5回連携・教育研究会のご報告～

1月29日(火) 県総合教育センターにおいて、第5回連携・教育研究会を開催しました。今回は、大学側からの情報及び研究の紹介ということで、数学教育講座の中村享史教授から、「新学習指導要領の方向性」～PISA型「数学応用力」の調査結果と関連させて～というテーマでご講演いただきました。今回も9月の第2回に引き続き、山梨大学教育人間科学部附属教育実践総合センターと山梨県総合教育センター共催の「特別講演会」という形をとり、メンバー以外にも、広く県下の学校の先生方に参加を呼びかけました。当日は、小中学校、高等学校、特別支援学校の先生方、県や市町村の教育委員会・教育事務所の指導主事の先生方、総合教育センターの先生方など合計185名の参加がありました。今後も、教育現場の課題に沿ったタイムリーな講義を望む声や、総合教育センターと大学が連携した講演会や学習会をさらに期待する声が聞かれました。

第6回連携・教育研究会のご報告

2月14日(木)、県総合教育センターにおいて、第6回連携・教育研究会を開催しました。3月3日(月)から始まる集中講義「授業研究実践論D」の実施に向けて、それぞれの講師の先生方の授業内容の紹介、題目の検討、及び評価内容や方法の検討を行いました。また、授業に向けての時間の確認や資料、機器の準備といった具体的な進め方の検討も行いました。先生方の授業に臨む熱い思いや授業方法の様々な工夫等についてもお聞きすることができ、当日の授業への期待が高まりました。

「教師のための教育相談」の報告書に関するお願い

教育相談を実施した方は報告書の提出をお願いします。報告用紙は庶務事務室入り口左手の共通レターケースの中にあります。提出は随時受け付けておりますので、鳥海のレターケース(障害児教育講座)にお入れください。

これまでのセンターだよりの一部は<http://www.cer.yamanashi.ac.jp/centerdayori.html>で見ることができます。